

## 学び、手本とし、共に進む

外交学院学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

### 見学概要

今回の中国大学生代表団の中国駐日本国大使館への訪問では、まず国際及び地域部の律公使参事官から日中両国の古代から現在まで続く外交の歴史についての紹介があった。また日中両国の密接な歴史的関係と国交の状況、そして両国の友好関係の今後のさらなる発展への願い、及び未来の両国関係を発展させる上での主力である青年への期待が示された。律公使からのお話の後、清華大学、中国人民大学、首都医科大学、对外経済貿易大学、北京語言大学そして外交学院の学生代表が、それぞれ今回の訪日における感想や収穫などを発表した。その後王占起団長からの総括があり、最後に私たちは公使と共に大使館のゲート前で記念撮影をし、大使館への訪問を終えた。



外交学院の範伯陽さんの発言の様子

新鮮な出来事：学生等は日本での感想や収穫の紹介の際に、いずれも日本の家庭の子どもへの教育方法と中国の家庭の教育方法との違いについて述べていた。中国国内ではほとんどの学生が一人っ子で、今回の訪日活動では日本の家庭の日常生活を体験し、さらに兄弟姉妹がいるという楽しさを感じることができた。しかしながら彼らとの交流において私たちは、日本の家庭では子どもは特別な「寵愛」もしくは寛大な待遇を受けていないことに気が付いた。彼らは家庭において、食事前に食器を並べたり、自分が使った皿を片付けたりといった自分がすべきことをしなければならない。それ以外にも彼らは小さい頃から譲ることを覚え、自分の兄や姉、ひいては父親や母親に好きなものを先に選ばせている。また非常に礼儀正しく、周りの全ての人を尊重している。そして彼ら自身も家族からのサポートに必要以上に頼ることはなく、可能な限り自分自身で問題を解決している。こうした学生等の感想からは、ホストファミリーの子ども等への称賛や驚き、それ以上に感動が感じられた。なぜなら私たちが体感したのは、日本の家庭の子どもへの教育だけでなく、日本国民の民族性と彼らの社会的集団意識だからである。

## 感想

今回の大使館への訪問にて私たちは二つの収穫を得ることができた。一つめは律公使からの日中の国交の歴史の紹介及び私たち青年に対する日中両国関係の推進への期待で、二つめは学生等の紹介にあった日本の家庭、社会及び民族性への感想であった。

充実したスケジュールの中、私たちは常に日本の社会、人々そして企業の特徴を体感し、それと同時に日本民族と社会の長所を目にすることができた。日中両国は地理的に一衣帯水で、歴史や文化についても源を同じくし、古くから交流をしているため、共同発展は一貫して両国関係におけるテーマとなっている。互いに学び合う上での前提は相手を深く知ることであり、今回の訪日活動は私たち大学生にとって日本をより良



く知る機会となった。学生等が感想を述べるコーナーでは、とある学生から日本の進んだゴミの分類や処理技術そして人々の高い環境保全意識についての話があったが、私たちとしてもこの点については印象深いものがあった。日本の国土面積は小さく、天然資源や石油・ガス資源が乏しいことから、こうした危機感の中、日本人は古くから環境保全意識と自然への畏敬の念を有している。市内の公園では、公共施設の建設が動植物の成長を妨げないよう電信柱が低く設計され、明るさもその他の場所とは異なっている。また日本のトイレ施設ではトイレペーパーに水溶性の環境に優しいものが使われ、トイレペーパーの製造にかかる伐採量やトイレ洗浄水の節約につなげている他、清掃にかかる労働力も減らしている。路地ではゴミを見かけず、清掃作業員の姿も見かけない。反対にほぼ全ての住宅や店舗においては分別済みのゴミが置かれ、専門のゴミ処理スタッフが回収し処理を行う。日本の環境保全や省エネはすでに意識の段階から実際の行動の段階に移っている。彼らの自然に対する畏敬の念により、日本の森林カバー率は66%に達し、大気や水資源の品質も世界で上位となっている。

中国は経済が発展する中で環境への保護についても重視の度合を高めている。習主席は「緑水青山は金山銀山（豊かな自然こそ富である）」との考えを打ち出している。環境問題が深刻化している現在において、いかに友好国から経験を学ぶかは中国の持続可能な発展において重要な意義を持っているのみならず、日中両国が互いに学び共に発展していく上での大きな課題である。